

事業名：先進的情報技術活用プロジェクト

契約件名：「ネット社会の歩き方」教育指導カリキュラム及び体験ソフトの開発

< 参照資料 - 2 >

「学習ユニットシナリオ案」

平成13年1月

株式会社ランドコンピュータ

学習ユニット毎に画面の流れと画面毎に登場人物の台詞や解説文

1、個人情報の保護

（基本） たまたまダイスケ君はWEBページを見ていてアンケートのページを見つけた。アンケートに答えると、キャラクターカードがもらえると書いてある。ダイスケ君は、名前や住所、電話番号、学校名、家族構成、保護者の職業、メールアドレスなど細かな個人情報を答えた。キャラクターカードは届かず、代わりに教材会社や家庭教師の派遣会社からしつこく電話やダイレクトメールが届くようになった。

第1場面	ある日、ダイスケ君が色々なウェブページを見て楽しんでいると・・・ ダイスケ君「あっ、おもしろそうだな。これやってみよう！」
第2場面	パソコンの画面「アンケートに答えると無料でキャラクターカードを差し上げます。」
第3画面	ダイスケ君「すごいな。さっそく入力しちゃおう！」
第4場面	細かいアンケートに答えるダイスケ君。住所や名前を入力している。「よし、送信だ！」
第5画面	何日かして、「おかしいなあ、せっかく答えたのに、キャラクターカード届かないなあ・・・」 すると郵便やさんがくる。ダイスケ君「あっ。来たっ。ゆうびん屋さんだ！」
第6場面	しかし届くのは色々なダイレクトメールや勧誘の電話ばかりであった。 ダイスケ君「キャラクターカードきたかな？これかな？これかな？」「ぜんぶ広告ばっかりだあ！どこで住所を調べたんだろう？」

（応用） リカコさんは家族を紹介するWEBページを公開した。そのページにリカコさんのお姉さんの携帯電話番号まで掲載してしまった。ある日から急にお姉さんの携帯電話に変な電話がかかるようになった。よく調べてみると、恋人紹介のページにお姉さんの電話番号が掲載されていた。そのページの管理者に削除を求めても、応じてくれなかったので仕方なくお姉さんは電話番号を変えることになった。

第1場面	自宅のパソコンでWEBページを見ているリカコさん。色々な自己紹介のページがあることに気がつく。突然ひらめくりカコさん。「そうだ、私も家族のホームページを作ろう！」
第2画面	家族を紹介するページを作るリカコさん。「やっぱりみんなのスナップ写真や携帯電話の番号ものせておこっと」
第3画面	「ようこそリカコのおうちへ！私の家族紹介」として、お父さん、お母さん、お姉さんの写真や携帯番号を載せた。 「できた！さっそく、ホームページを公開しよう！」
第4場面	そして、何日かたったある日、食事をしながら姉が・・・「最近私の携帯に変な電話がたくさんかかってくるのよ。どうなっているのかしら・・・」
第5場面	リカコさんがお姉さんの名前と電話番号で検索してみると「恋人紹介のページ」にお姉さんの顔写真までのっていた。 「このせいだ。でもどうして携帯の電話番号が分かったんだろう？」「あっ、最近作ったあのページのせいかもしれない・・・」

第6場面	リカコさんとお姉さんの会話。 リカコさん「このあいだの変な電話の理由分かった！お姉さんの電話番号が変なページにのっちゃってるんだ。でも、発信者が削除してくれないの。」 お姉さあ「しかたがないわね。電話番号変えるしかないわ。大迷惑よ。でも一体誰が私の携帯の番号を教えたのかしら。」
------	---

2、チャットの危険性

(基本) あるチャットルームでカオルさんとクミコさんは、チャットを楽しんでいた。仲良くなり電話番号を教えあっていた。そんな時に大学生と名乗るサトル君が、チャットに加わり、二人の相談に答えるようになった。特にサトル君は、クミコさんに親切に答えた。今度クミコさんに会いにくるといふ。カオルさんもクミコさんも恐くなり、どうしたらよいか心配になった。

第1場面	自分の家で時計を見ているカオルさん「そろそろクミコちゃんとチャットする時間だ。」とパソコンに向かう。
第2場面	カオルさんとクミコさんがチャットをしている。 クミコさん「今度写真送るから住所教えてね」 カオルさん「クミコちゃんの声が聞きたいから電話番号教えてくれる？」 クミコさん「いいわよ。」
第3画面	そこに大学生と名乗るサトル君がチャットに加わる。「大学生のサトルです。」「チャットの仲間に入れてね。」クミコさん「初めまして・・・」カオルさん「大学生なんだ・・・」カオルさん、クミコさん、サトル君でチャットを始める。
第4場面	クミコさんが悩んでいることを相談する。「悩んでいることがあるんだけど・・・」サトル君「それはこう考えればいいんじゃないかな。」クミコさんの相談に親切に答えるサトル君
第5画面	チャットでもり上がった次の日、サトル君からクミコさんに電話が・・・
第6画面	サトル君「君の相談についてもっとくわしく話しを聞きたいんだけど・・・」 「電話では話しにくかったら家まで行ってもいいよ。」
第7場面	その後、クミコさんはカオルさんに電話で・・・ クミコさん「こんど、サトルくんが会いに来るって言ってるんだけど・・・」 カオルさん「サトル君って本当に大学生なの？」クミコさん「わからない・・・」カオルさん「住所おしえたの？」クミコさん「まだおしえてないけど・・・」 カオルさん「どうする？」

(応用) タケシ君とケンタ君が自宅からチャットルームに入って、二人でチャットをしていた。その時、別の中学生の男の子がチャットルームに入ってきて、いきなり「最新式のゲーム機が2台あるから1台をあげる」と言ってきた。そこでケンタ君が「ほしい」と答えると、住所や電話番号などを聞いてきた。そして、ケンタ君の家に近い駅前のコンビニに取りに来るように言ってきた。約束の日時に指定されたコンビニに行ってみても、相手は現れず、どうして住所や電話番号などを聞いてきたのか心配になってきた。

第1場面	タケシ君とケンタ君が自宅からチャットルームに入ってチャットを楽しんでいる。 ケンタ君「今度出たゲームソフト、知ってる？」タケシ君「知ってるけど今持ってるゲーム機じゃ使えないんだよ！」
第2場面	中学生と名乗る別の男の子がチャットルームに入ってきた。「僕、君らと同じ市内の中学生なんだけど。」ケンタ君「どこの中学？」男の子「西中だよ。2年生なんだ。」 「ところで、最新式のゲーム機が2台あるから1台をあげるよ。」ケンタ君「ほんと、

	僕ほしかったんだ。ちょうだい。」
第3場面	男の子「じゃあ、君にあげるから住所と名前と電話番号教えて。」 ケンタ君「わかった。僕の住所と名前と電話番号は・・・」男の子「じゃあ、今日の日曜日の夕方5時に駅前の コンビニに来てくれる？」ケンタ君「わかった。ありがとう。」
第4場面	日曜日の夕方、駅前のコンビニで男の子を待っているケンタ君。「もう5時半になったのに来ないなあ。どうしたんだろう？」「どうして、住所と名前と電話番号を聞いてきたんだろう？どうしよう？」

3、ウイルス

(応用)ある日、ケンイチ君に見ず知らずの人からメールが届いた。このメールにはおもしろいものを送るので、ぜひ開けてみてくださいと何かのファイルが添付されていた。このファイルを開いたところ、画面に花火が表示されたのでしばらく眺めていた。このあとケンイチ君はマサル君にメールを送った。翌日、学校でマサル君に呼び出され「君のメールにウイルスが付いていた。気づかずに開けたところ自分のパソコンがウイルスに汚染されて動かなくなってしまった。どうしてくれるんだよ！」と言われてしまった。

第1場面	自宅のパソコンでメールをチェックしているケンイチ君。「メールきてるかな？」
第2場面	「お、きてるきてる！だれからかな？」
第3場面	「知らない人だけど・・・ あ、何か添付されてるぞ」 メールには「こんにちは。おもしろいものを送ります。ぜひ開けてみてください。親切な人間より」とあった。
第4場面	添付ファイルを開けてみると、パソコンの画面に花火のアニメーションと最後に mission complete SEE YOU AGAIN と表示される。「花火のアニメがあ。おもしろいじゃん。」
第5画面	「あっ、いけない。花火を見ているばあいじゃないや。マサルに宿題のことでメールを送らなきゃいけないんだった。」
第6画面	つぎの日・・・
第7画面	学校で。マサル君「おまえ、きのうおれにウイルス送っただろ！」「花火のアニメが出たあと、一度パソコンの電源をオフにしたらそのあとぜんぜん動かなくなったぞ！どーしてくれんだよ?!」 ケンイチ君「えっ?!・・・?!?! な、なんのこと-?!?!」
第8画面	解説画面「花火のあと、ケンイチ君のパソコンにウイルスがとりつきました。そのまま、ケンイチ君はウイルスに気がつかないで電子メールを送ってしまいました。 そのため、ウイルスがメールといっしょにマサル君に送られてしまいました。このようにコンピュータウイルスには、感染してもすぐには壊れず、パソコンの電源をオフにしてからまたオンにしたばあいなどにハードディスク内の大切なファイルをこわすものがあります。」

4、誹謗中傷

(基本)カオルさんは自分の学校が交流している 小学校の WEB ページに掲示板が設置されていることを知った。そこで、ちょっといたづらをしてやろうと考え、クミコさんと相談し自分のクラスにいる さんの悪口をその掲示板上に書き込んだ。後日、相手校の生徒がいたづら書きされた掲示版

を見つけて先生に報告した。 小学校からカオルさんの学校に連絡が入り、ログ情報が送られてきた。その情報からカオルさんが書き込んだことがわかり先生から厳しくしかられた。

第1場面	学校のコンピュータ室での授業 先生「今日は交流している 小学校のホームページを見てみましょう。」
第2場面	カオルさんはクミコさんにひそひそ話をする。「クミコちゃん、 小学校のホームページには掲示板があるよ。」「メッセージが書きこめるようになっているよ。」 クミコさん「おもしろそうね。」 カオルさん「ちょっといたずらしてみない？」 クミコさん「どうやって？」カオルさん「いつもいばっている ちゃんの悪口を書いてやろうよ」クミコさん「ばれない？」カオルさん「だいじょうぶだよ。見つかりっこないよ。」
第3場面	カオルさんは さんの悪口を書きこんでいる。「 はクラスできらわれています。なぜならせいかくが悪くてのろまだからです。」 カオルさん「送信！！」
第4場面	小学校で掲示板を見て・・・「ワー、ひとの悪口、書きこんでいる人がいる！！」と生徒が気が付く。
第5画面	小学校の先生から 小学校へ電話があって・・・。「先日、私の学校のけい示板にいたずらの書き込みがあったのですが、」「ホームページを見た人の記録を調べるとそちらの学校からです。」先生「本当ですか？」 小学校の先生「いたずらに使ったコンピュータの番号といたずら書きをした日付、時間を連絡します。」
第6画面	次の日職員室で先生がカオルさんとクミコさんに「きのう、このパソコンを使っていたのはカオルさんだね。」カオルさん「はい、そうです。クミコちゃんと二人でしました」先生「じゃあ、カオルさんとクミコさんでいたずらの書き込みをしたんだね。」

(応用) ある日学校でリカコさんはホームページの作り方を勉強した。学校からの帰りに無料でホームページが開設できるサービスを思いだし、早速勉強した成果を試すことにした。リカコさんはラーメン屋さんに怒られたことを思いだし、デタラメな悪口をホームページに書いて、たくさんの人に見てもらおうと、いろいろな検索サイトや掲示板で宣伝した。その結果、リカコさんのホームページはたくさんの人が見るようになったが、ラーメン屋さんから営業妨害なので訴えるというメールが届いた。

第1場面	教室でホームページ作りを勉強しているリカコさん。 先生「今日はホームページの作り方を勉強しましょう」 リカコさん「へー、こうやればできるんだ。」
第2場面	学校から帰る途中ふと思いつくリカコさん。「そうだ、無料でWebページを開設できるサービスがあるって聞いたことがあったわ。」「早く帰ってホームページを作ろう！」
第3場面	自宅でホームページを作っているリカコさん。ホームページが出来あがり、「これでよしと！」
第4場面	ホームページでいたずらをするを思いついたリカコさん。 ラーメン屋のオヤジさんに起こられたことを理由にラーメン屋さんのデタラメな悪口を書くリカコさん。 「そういえば、このあいだ近所のラーメン屋のオヤジに怒られたんだ。あのオヤジ、ムカツクからお店の悪口を書いちゃえ」「あることないこと、むちゃくちゃ書いちゃお。」

	「 ラーメンおもしろ情報！！ ラーメン店のラーメンスープの鍋にはネズミが入っています。また、キッチンがゴキブリだらけです。」
第5画面	そしてリカコさんはいろいろな検索サイトや掲示板で自分のホームページを宣伝しました。 リカコさん「たくさんの人に見てもらうように宣伝してやろう」 画面 オモシロ掲示板 リカコのグルメ情報！！ URL http://www. .ne.jp/rikako/ 近所のおいしいお店を紹介しています。ぜひ、ご覧ください。
第6画面	次の日、自分のホームページをのぞいて見ると・・・ みるみるアクセスカウンターが増えていく。 リカコさん「ワーイ、ざまー見ろ！」
第7画面	ある日、一通のメールが届く。リカコさん「メールが来てる。」
第8画面	それはラーメン店の店長からの抗議のメールでした。 画面 差出人 ラーメン店 店長 件名 営業妨害で訴えるぞ！ おまえのせいで客が来なくなった。どうしてくれるんだ。 営業妨害で訴えるぞ！

5、責任ある発信

(基本) カオルさんは自分でWEBページを公開しているが、おもしろいことを書きたいと思い、さんがみんなにぐずとからかわれ動作がのろい、君がいつも忘れ物をして先生に怒られているなど、学級で起こった事をおもしろおかしく脚色してうそのことばかり掲載した。書かれた生徒がカオルさんにこんなことは書いてほしくないと抗議した。

第1場面	自宅のパソコンに向かうカオルさん。自分のページを見ながら「もっとおもしろいことを書きたいなあ・・・」
第2場面	カオルさん「そうだ！学校のことをいろいろ書いてみよう！」
第3場面	ウソのことばかり書くカオルさん。 「今日はクラスの がみんなにぐずとからかわれて、泣きました。彼女は本当にどうさがるのろいです。君は忘れ物名人です。毎日忘れ物をして先生にしかられています。」 カオルさん「これでみんなに見てもらえるおもしろいページができた。さっそくインターネットに発信しよう」「送信」ボタンを押す。
第4場面	何日かあと、君が教室でプリントした紙を見せながら・・・ 君「先生、カオルさんは自分のホームページにぼくの悪口をのせています。」 さん「私の悪口も書いています。」
第5画面	先生「カオルさん、それは本当ですか？」 小さくなり、うなだれるカオルさん

(応用) リカコさんはお母さんと近所のおばさんの会話から駅前にあるスーパーで売られている野菜がいつも古くて高いということを聞いた。そこで、みんなに教えてあげようと自分のWEBページに「リカコの知って得する耳寄り情報」という題でこのことを掲載した。これを見た人からお礼のメールが届いたが、後日、このスーパーの経営者からメールで抗議を受けた。

第1場面	学校から帰ってきたリカコさん。「ただいま・・・」
------	--------------------------

第2場面	リビングでお母さんが近所のおばさんとしゃべっている・・・ リカコさん「あかあさん、ただいま・・・」 お母さん「お帰りなさい。」
第3場面	近所のおばさん「駅前スーパーで売っている野菜はいつも古くてそれに高いのよ。」 お母さん「ホント！？　じゃあもうあそこでは買わないことにするわ。」
第4場面	自室のパソコンに向かうリカコさん。「そうだ、今のおばさんの話は役に立つ話だからインターネットでみんなに知らせよう！」 パソコンの画面「リカコの知って得する耳寄り情報　駅前スーパーの野菜はいつも古くて高いよ！　買っちゃダメー」 リカコさん「これでいいわ！」
第5画面	後日、自室のパソコンに向かいメールチェックするリカコさん。「メールが来てるわ！」メールの内容「駅前スーパーの情報大変役に立ちました。これからはあそこで買わないことにします。どうもありがとう。」リカコさん「あのページが役に立ってよかったわ。」
第6画面	次の日、メールチェックするリカコさん。「今日もメールが来ているぞ」 メールの内容「私は駅前スーパーの経営者です。あんなデマをインターネットに書かれて大変迷惑しています。即刻あのページを削除してください。会社としてあなたに損害賠償を検討しています。」 リカコさん「このメールはあの駅前スーパーからだ！！」

6、知的所有権の保護

（基本）カオルさんは自分のWEBページを立ち上げている。もっとおもしろいページを作りたいと思って、タレントの写真が載っている雑誌のページをスキャンして自分のページに貼り付けた。ある日、このページを見た人から、許可を受けて掲載しているのか注意のメールが届いた。

第1場面	家でパソコンに向かうカオルさん。自分のページを見ながら「わたしの作ったページってなんだかつまんないなあ。みんなに見てもらえる、もっとおもしろいページにしたいなあ・・・」
第2場面	カオルさん「そうだ、雑誌から私の大好きなタレントの写真をスキャナーで取り込んで、ホームページにはりつけよう。」
第3場面	作業をするカオルさん「できた！」
第4場面	カオルさん「これでわたしのページもカッコよくなったわ！。さっそく発信しよう！」 カオルさんは「送信」ボタンを押し、「送信！」
第5画面	何日かして・・・、カオルさん「知らない人からメールが来ている。何だろう？」
第6画面	メールの内容「あなたのホームページ楽しく見せてもらいました。でも、あのタレントの写真は許可を受けてホームページにのせているのですか？　許可なしでは法律違反ですよ。」リカコさんはドッキリする。

（応用）ケンタ君は音楽データが置いてあるサイトからMP3ファイルをダウンロードしたり、CDから音楽をコピーしてパソコンで音楽を楽しんでいる。

ファイルを整理するために、一時的にプロバイダーのサーバーの中に置いておくことにした。公開しているページからリンクはしていなかったが、検索ソフトのリストに自分が保存して置いたファイルが表示されているらしく、そのデータをダウンロードした人から、音楽データについて交換ができ

るサイトについて紹介があった。さっそく、そのサイトを訪れてみると音楽データをダウンロードするかわりに自分が持っている音楽データをアップロードするという交換サイトで他では手に入らない曲がたくさんあった。聞きたかった曲があったので、自分が気に入っている歌手の曲と引き替えにダウンロードした。

第1場面	自分の部屋でパソコンにヘッドフォンをつないで音楽を聴いているケンタ君。「音楽を聴くにはやっぱりパソコンだな。パソコンにCDから取り込んだり、インターネットからダウンロードするのととても便利だし」「MP3だと音もいいし、ファイルも小さいからどこでも聴けるぜ!!」
第2場面	「ずいぶん音楽ファイルがたまってきたなあ・・・」「そうだ、一度整理しよう!自分のホームページに入れておくと、インターネットにつないでいつでも聴けるからいいよな。」
第3場面	メールをチェックするケンタ君。「あれっ?誰からだろう・・・」
第4場面	メールの内容「はじめまして。私はあなたがアップロードしているMP3をダウンロードして音楽を楽しんでいます。今日あなたにしょうかしたいのは、音楽ファイルを自由に交換できるページです。ぜひ一度アクセスしてください。」 ケンタ君「ふう～ん」「どれどれ」 パソコンの画面「ユースケのほむページ!ダウンロードしよう!あなたのお持ちの曲とこうかんしませんか?」 ケンタ君「なるほど便利なページだな・・・自分の持っている音楽ファイルを自由に交換できるんだ!アッ、この曲、前から欲しかったんだ。ようし、送ってみるか・・・」
	「この行為についてあなたはどのように考えますか?」

7、なりすまし

(基本) トオル君がノートにメールアドレスとパスワードをメモしていた。これをたまたま見つけたダイスケ君は試しにトオル君の名前で電子メールを自分宛に出したところ、自分に届いた。ダイスケ君はちょっといたずらしてやろうと　さんに「あなたが好きです。結婚してください。トオルより。」といったずらメールを出した。　さんは、このメールのことを学級会で話した。そして後日、先生から「いたずらメールを出したのはダイスケ君だね。」と問いつめられた。

第1場面	ダイスケ君は休み時間にトオル君のノートにメモが書いてあるのに気づく・・・ 「あっ、これってトオル君のメールのIDとパスワードだ。ようし、メモしておこう。」
第2場面	コンピュータ室で・・・ダイスケ君「トオル君のメールって使えるかなあ・・・」「一度、トオル君のメールから自分に送ってみよう。」「こんどは～。自分のアドレスで届いているかチェックするんだ。」「よっし、届いてるぞ～。これでちょっといたずらしてやろう。」「
第3場面	メール送信の画面「　さん、あなたが好きです。結婚してください。トオルより」そして「メール送信!」
第4画面	何日かして学級会で　さんがみんなに向かって・・・「わたしにトオル君の名前でいたずらのメールを送った人がいます。だれですか?」 先生「だれが書いたか通信記録とパソコン教室の使用記録を調べれば分かります。いたずらをしたのはだれですか?」心配になるダイスケ君
第5場面	何日か後、先生に職員室によび出されて・・・。先生は記録簿を見せながら「自分あてにトオル君のアドレスでメールを送りましたね。トオル君は送っていないと言っていましたよ。」「いたずらメールを出したのはダイスケ君だね。正直に言いなさい」うな

	だれるダイスケ君。
--	-----------

8、カードの不正利用

〔基本〕ダイスケ君はインターネットショッピングのページを見ていたら、以前からほしかったゲームソフトが格安で販売されているのを知った。どうしても欲しくなったので、友達から教えてもらった「ネットショッピングができる秘密の番号」を思い出して、買い物ができるかどうか試しに使用してみた。後日、ゲームソフトが家に届き、友達から借りたことにしてゲームを楽しんでいたら、警察から電話があり、他人のクレジットカードで買い物をしたかどうか問い合わせがあった。

第1場面	自分の部屋でインターネットのウェブページを見ているダイスケ君。最近発売された人気のゲームソフトが格安で販売されているのを見つけた。「このソフト、前からほしかったんだ！」
第2場面	「ほしいなあ・・・」「そうだ！この前、友達から「この番号で、買い物ができちゃうんだって」って秘密の番号を教えてもらったんだ。」「本当かどうかためしてみよっと！」
第3場面	クレジットカードを入力するダイスケ君。「これでよしと」「注文！」
第4場面	何日かして、ゲームをしていると・・・お母さん「この新しいゲームどうしたの？」ダイスケ君「友だちから借りたんだよ。」
第5画面	何日か後、警察からダイスケ君のお父さんに問い合わせの連絡が入って・・・「はい、わかりました。確かめてみます。」「ダイスケ、実は他人のクレジットカードを使って買い物をしたかどうか警察から問い合わせがあったんだ。どういうことなの？何か知ってるか？」うなだれるダイスケ君。

〔応用〕ケンイチ君はお父さんから海外のショッピングサイトからCDの購入を頼まれた。セキュリティもしっかりしていそうなので、注文内容もしっかり確認し、注文した。きちんと商品が届いた。ショッピングサイトが信頼できるか、そしてセキュリティ管理もしっかりされているか確認してから注文する事が大事であると思った。

第1場面	ケンイチ君はお父さんから海外限定版CDの購入について相談を受ける。 お父さん「ケンイチ海外限定版のCDを買いだいたいだけねえ」 ケンイチ君「ああ、それならインターネットで簡単に買い物ができるよ！」
第2場面	ケンイチ君はインターネットでショッピングサイトをいろいろ調べる。 ケンイチ君「よし、ここならだいじょうぶだ。申し込みのページも暗号化されているみたいだし、心配ないな」ショッピングサイトのページには鍵のマーク
第3場面	ケンイチ君「注文内容も確認したし、よし、注文！」
第4画面	インターネット回線上で盗聴しようとしている人「このデータは暗号化されている。ぬすめないな・・・」
第5画面	何日かして・・・
第6場面	ケンイチ君「やったー！ちゃんとCDが届いたぞ！」
第7画面	ケンイチ君「ほらね、簡単に買えたでしょ。インターネットって便利だね。」 お父さん「そうだね。ありがとう。ケンイチ。」 ケンイチ君「インターネットで買い物をするときは「そのお店がきちんとしているか」「申し込みの時に暗号化されているか」を確認することが必要だね。」

	お父さん「そうか。ケンイチ、よく知っているね！」
--	--------------------------

9、雲隠れ

(基本) インターネット上の売買のページにゲームマシンが売りに出ていたので商品代引きなら安心と思い、注文した。商品が届いたので早速ゲームをしようとした。しかし、このゲームマシンは電源が入らない欠陥品であった。あわてて、WEBページ上のメールアドレスから、連絡をとろうと思ったが、ホームページ自体がなくなっていた。個人売買のページをのせているプロバイダーに電話して住所や電話番号を聞いたなら教えられないと言われた。

第1場面	ダイスケ君がインターネットで中古品を売っている個人のページを見ていると・・・ ダイスケ君「個人売買にはいろんな物を売ってるなあ」「あっ、このゲームマシン、前からほしかったんだ。それにとっても安いし。よし、買うぞ！」
第2場面	商品購入のページに入力するダイスケ君。「代金のしはらいはっと・・・商品が送られてきた時にはらう『商品代引き』だと安心だな。」ダイスケ君「ちゅうもん」のボタンを押す。
第3場面	何日かして、ダイスケ君の家にゲームマシンがとどきました・・・ 「小づつみです」ダイスケ君商品を受け取り「ありがとう。」「ハイ代金です。」、代金を支払う。
第4場面	テレビにつないでゲームを始めたダイスケ君。テレビには何も映らない。「あっ、これってこわれてる・・・」
第5画面	自室のパソコンに向かうダイスケ君。「あっ、個人売買のページがなくなっている。これじゃあれんらくが取れないよ!」「このページのプロバイダーに連絡してみよう」「エッ、住所や電話番号を教えてくれないの・・・!？」

10、マルチ・ネズミ講

(応用) ある日、ジロウ君はタカシ君から「金儲けの方法を教える」というメールを受け取った。そこには、「4000円の元手で300万円が儲かる」という内容が書かれてあった。メールには4人の名前があり、それぞれ4人に1000円を送金するとレポートがメールで送られてくる。4人のうちの一人を自分の名前にして、知り合いにメールを出したらあとは現金が送金されてくるのでレポートを送ればいい、という内容である。儲かりそうなので、ジロウ君は友だちや知り合いに勧誘のメールを出したが「ネズミ講の勧誘をした」として多くの友人を失ってしまい、後日、警察からも事情を聞きたいので出頭するようにとメールが届いた。

第1場面	自宅のパソコンでメールをチェックしているジロウ君。「あ、タカシからメールがきてる。ひさしぶりだな・・・なんの用だろ？」
第2場面	ジロウ君「なにになに・・・」 タカシ君のメール「お久しぶりです。今日はジロウ君にお金がもうかる話でメールしました。4000円はらえば、300万円もうかるという話です。本当です。」
第3画面	タカシ君のメール「まずどうするかというと・・・ Aさん Bさん Cさんとぼくタカシの4人に1000円ずつ送ってください。」
第4画面	タカシ君のメール「すると、レポートが送られてきます」
第5画面	タカシ君のメール「そして、4人のうち最初の人(Aさん)を消して最後の一人を自分の名前にかきかえて、できるかぎり多くの人にメールを出してください。そうする

	と、どんどん現金が送られてくるので、そのつどレポートを送ればいいのです。」
第6画面	タカシ君のメール「ぜひ参加して、お金をもうけてください。タカシより」 ジロウ君「これってホントにもうかりそう・・・損しても4000円だし、やってみようかな。まずは4人にお金をふりこめばいいんだな？」
第7画面	ジロウ君「やった！レポートが4人から送られてきたぞ！」「じゃあ、名前を書きかえて・・・できるだけたくさんの人に送らなくちゃ！」
第8画面	つぎの日・・・
第9場面	メールチェックしているジロウ君。「わ、いっぱいメールがきてる！」
第10場面	画面「ネズミこうにさそうのはやめる！」「もうメールを書かないでください」「友達やめる」ジロウ君「な、なんだなんだ?!?!」
第11画面	メールの画面「なんでこんなネズミこうのメールを送ってくるの？もう二度とメールを送ってこないでください。さよなら。」
第12画面	ジロウ君「あっ 警察からもメールがきてる・・・」
第13画面	メールの画面「 警察しょ あなたのメールは違法性があります。事情を聞きたいので 警察しょまで出頭してください。」ジロウ君「ど、どうしよう・・・」

1 1、海外接続ソフトのダウンロード

(応用) ケイコさんはダウンロードも利用もただという占いのページを見つけた。早速、ダウンロードし、それからは休みの日のたびに友達やお母さんの占いをして楽しんでた。しかし、1ヶ月後、国際電話の請求書が届き、8万円の請求でお母さんはビックリした。

第1場面	ケイコさんは自室でインターネットのWEB ページを見ている。「最新さかな占い」と書かれたページを見つけた。「なにこれ、新しい占い？」
第2場面	画面「ダウンロード、ご使用無料」ケイコさん「面白そう！」
第3画面	ファイルのダウンロード画面でダウンロードをするケイコさん 「これも「はい」をおせばいいんだよね」
第4画面	ケイコさん「あっ、つながった、つながったー」「ダウンロードもうらないもタダなんだよね！楽しみー！！」
第5画面	それからケイコさんは、休みの日のたびにお母さんや友達のうらないをして楽しみました。ケイコさん「友達もうらなってみようっと・・・」
第6画面	1ヶ月後・・・
第7場面	お母さんが国際電話会社からの請求書を見て驚いて「なにこれ?!」 ケイコさん「?どーしたのママ？」
第8場面	お母さん「国際電話のせいきゅうが8万円も!! 一体だれが使ったのかしら・・・」

1 2、賭博行為

(応用) カズオ君はインターネットで野球くじで金儲けしようと考えた。高校野球の優勝校を一口1000円で予想させ、優勝した学校を当てた人に配当金を支払う仕組みである。インターネットで募集したところ、100口以上の応募があった。ところが警察からメールが届き、カズオ君のやったこ

とは賭博行為であり、法律違反なので、出頭するように言われた。

第1場面	カズオ君は自宅でインターネットのWEB ページを見ている。「インターネットって、いろんな人が使ってるんだなあ」
第2場面	カズオ君「そうだ！野球くじとかやってみたらどうかな？もうかるかもしれないぞ！」
第3場面	カズオ君が作る野球くじのページ「カズオのホームページ 夏の甲子園で優勝する高校に投票しよう！」
第4場面	「一口1000円。当たった人には高額配当金がもらえます。」 カズオ君「これでよし！」
第5画面	カズオ君「集まったお金から配当をはらって、あとの残りはぼくのもうけだ！」
第6画面	2日後・・・
第7画面	メールをチェックするカズオ君「すごい！100口以上もうしこまれてる！もうお金も銀行口座に振り込まれてるかな？」
第8画面	カズオ君。「あれっ?!これは・・・けいさつから?!」心配顔になるカズオ君
第9画面	警察からのメール「あなたがインターネットで行っている野球くじはとばく行為にあたり、法律で固く禁じられています。事情を聞きたいので ×けいさつまで出頭してください。」カズオ君「ええ?!・・・どうしよう」

13、違法商品の個人輸入

(応用)カズオ君は海外のネットショッピングサイトで「モデルガン」を販売しているのを見つけた。どうしても欲しくなったので、小遣いをはたいて販売会社に海外郵便為替で購入することにした。1ヶ月後、税関から連絡が入った。カズオ君が注文した「モデルガン」は銃刀法違反で通関が許可されず税関で没収したとのことであった。後日、販売会社にこの旨を連絡しても代金は返ってこなかった。

第1場面	カズオ君は自宅でインターネットのWEB ページを見ている。海外の通信販売会社が「モデルガン」を販売しているのを見つけた。
第2場面	カズオ君「おっ」「欲しいなーこれ・・・外国のモデルガンって、本物みたいによくできてるんだよなー」
第3場面	カズオ君「よしっ、買っちゃおー！クレジットカードが無い時は、海外郵便為替で送金すればいいのさあ。」
第4場面	カズオ君「1000円、2000円・・・今まで貯めたおこづかい全部合わせたら、ギリギリ買えるよ。やったー！」
第5画面	1ヶ月後・・・
第6画面	×税関から郵便が届く。喜ぶカズオ君「やった！モデルガンが届いたのかな？」
第7画面	しかし手紙には「あなたが購入しようとしているモデルガンは、銃刀法違反で日本に輸入できません。没収します。」と書かれていた。 カズオ君「ええッ、日本に輸入できないの?!・・・没収って・・・?!」
第8画面	カズオ君、悲しそうな顔で販売会社のWEB ページを開き、「買ったモデルガンのお金を戻して欲しいんですが・・・」

第9画面	カズオ君「販売会社に連らくしてもお金が返ってこないよ・・・トホホ・・・」
------	--------------------------------------

14、入力ミスによる発注

(応用) ダイスケ君はインターネットの通信販売のページで写真のフィルムが安く売られているのを見つけた。そこで、10本注文しようとしたが、せっかく安いのだからと気が変わり、20本に替えた。ところがダイスケ君は、個数の欄には「20」ではなく、「1020」と入力されてしまっていることに気づかなかった。確認画面もよく確かめずに「OK」ボタンを押してしまった。後日、ダイスケ君の家に大量のフィルムが届いてお母さんは怒っていた。本人も何でこんなにたくさん届いたのか判らない。

第1場面	ダイスケ君がインターネットの通信販売のページを見ていると・・・「写真のフィルムを安く売っているぞ。」「ちょうど旅行で使うところだったんだ。すぐ注文しよう。」
第2場面	パソコンの入力画面の「注文数量」ところでダイスケ君は迷っている。「最初10本買おうって思ったけど、やっぱり20本にしようかな」と20を入力する。ところが注文数量の欄は「1020」になっていて、それにダイスケ君は気づかないで「はっちゅう」と言いながら発注ボタンを押す
第3場面	注文確認画面の注文数量は1020。内容をよくたしかめずに「OK、OK!!」と言いながら、「かくにん」ボタンをおしてしまいました。
第4場面	何日かして、ダイスケ君が学校から帰ると・・・
第5画面	お母さんが玄関で「こんなにたくさんフィルムを買っていったいどうするのよ。1000本以上もきているわよ。」ダイスケ君「エッ、何で!?買ったのは20本だよ」